

山陰中央新報

10月20日
金曜日

発行所
山陰中央新報社

〒690-8668
松江市殿町383
電話 総合案内
0852(32)3440

空き家など活用 街づくり考える

松江で全国不動産会議

全国不動産会議島根県大会が19日、松江市殿町の県民会館であり、全国から集まった不動産業界関係者ら約1300人が、地域にある空き家などをうまく活用して街づくりを進める重要性を考えた写真。

大会では、介護事業などの日本ホスピスホールディングス（東京都）の高橋正



高橋

大島

社長、建築事務所ブルースタジオ（同）の大島芳彦事務、東北大学院工学研究科の姥浦道生准教授が「日本版CCRC（生涯活躍の

まち）のためのスマートタウン」をテーマに発表した。高橋社長は、地域振興を目的に石川県輪島市が市内の空き家を障害者グループホームや子育て支援施設に改修している事業を紹介し、「地域の活性化に向け、既存の資源が何に生かせるのかを見いだすことが大切」と力説した。

点を設け、にぎわいを取り戻した経験を踏まえ「資源を再編集し、新たな価値を創造する視点が重要になる」と提案した。

姥浦准教授は「街の建築物をよく知る不動産業者がコーディネート役を担うことが必要だ」とし、街づくりにおける不動産業者の役割の大きさに言及した。

大会は公益社団法人日本不動産協会が毎年開催しており、今年で53回目。県内での開催は初めてとなった。

（堀江玄）